

報告・評価シート

【報告日 2024年 12月 18日】

【評価日 2025年 1月 28日】

事業所名 グループホーム☆AQUA

法人概要	法人が運営する障害福祉サービス等事業（当該GH以外）	事業所名称、所在地、サービス種類 ・ショートステイ☆AQUA ・熊本県熊本市荒尾1丁目16番16号 ・短期入所	
事業所基本情報	各住居名称、所在地、定員	AQUA（住所：熊本県熊本市荒尾1丁目16番16号）定員4人	
	短期入所を実施する住居	住居名 AQUU（2床） 併設型・単独型 計2床	
	主たる対象者	身体障害者・知的障害者・精神障害者・難病患者	
利用者について	利用者の障害支援区分	区分6：1人、区分5：0人、区分4：1人 区分3：0人、区分2：1人、区分1以下：0人	
	利用者の年齢	60歳以上：1人、50歳代：0人、40歳代：0人、 30歳代：2人、10歳・20歳代：0人	
	利用者の状況	利用者：3人 住居内で日中を過ごす利用者：2人 他の日中活動サービス利用者：1人	
項目	評価の視点	【事業所記入欄】 具体的な内容	【地域協議会記入欄】 要望、助言、評価
1	当該日中サービス支援型共同生活援助事業の指定申請に至った経緯、目的等	申請前より障害者及び障害児と福祉事業を通して長年携わって参りました。その経過で障害者自身とKPである両親が共に高齢化を迎え、地域での居宅生活が破綻していく状況を目の当たりにしてきました。KPから「行き先が見つからない」との声を数々お聞きする中で特に医療依存度が高い障害者のGHが不足している事を切実に感じ、この度の指定申請に至りました。医療依存度が高い障害者でもGHで医療を受けながら安心して地域生活が継続できるよう支援する事を当該事業所の目的としております。	○医療依存度の高い障害者への支援を目指されているが、現在の利用者で医療的ケア対象者はいるか →現在はないが、吸入・排便コントロール等は行っており、今後医療的ケア対象者有りになった場合は酸素ボンベや吸引機の設備は整っているため対応可。
2	支援の基本方針	本人の意思と人格を尊重し、常に利用者の立場に立ち権利擁護を心がけ支援を行います。また、利用者にとって安心と安全が確保できるよう適正な共同生活援助の運営に努めて参ります。	○本人の意思決定への取り組みはどのような体制か →入居時に家族を呼んでいる。延命措置について、意思決定を本人および家族に聞き取りを行っており、更に本人に対しては、気持ちの変化などあり得るため、月に1回再度の聞き取りをしている。（相談支援員含めて） ○ショートステイについて、緊急で受け入れはあるか →これまで3回有り。直近では、23歳の方を2泊3日で受け入れた。 ○利用者からの要望・苦情の件数はどのくらいか →細かいものを含めると30件以上ある。「風呂場にマットを購入してほしい」や食事についての要望など。 その都度支援記録に残している。 （助言）利用者の安全面についてリスクマネジメントを行ってください。

項目	評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】	
		具体的な内容	要望、助言、評価	
利用者の主な日中活動	3	日中の支援方法 (日中をGHで過ごす利用者に対してどのような支援を行うのか)	利用者が地域において自立した日常生活と社会活動に参加できるよう介護と支援を行います。具体的には、利用者の心身の病状と障害の特性に応じた保清支援、入浴支援、排泄支援、食事支援を基本とし、社会活動として在宅就労活動、運動と知的機能維持の為に運動訓練、作業訓練などのリハビリテーションを実施し、残存機能維持を図る支援を実施しております。	○買い物(利用者から希望)はどうしているか →申し出があれば職員が買い物に出かける体制を取っている。 ○週末の外泊などの状況は →週末は実家へ帰る利用者もいるため、随時対応している。 公用車で動物園等に出かけることもある。外出先については、利用者全員と話し合い決めている。 ○利用者の間食は自由なのか →可能。制限はかけていないため、部屋に冷蔵庫を設置している方もいる。共有スペースにも冷蔵庫はあるため、自由に使用して良いことにしている。
	4	利用者の意向に合わせて適切な日中活動サービス等が利用できるよう、相談支援事業者や他の障害福祉サービス事業者との連携に努めているか	(主な日中活動サービス等の利用先) 本人の希望と必要性に応じて生活介護の利用、就労移行支援事業所の利用を相談支援専門員と連携を図っております。社会生活等に関する相談及び助言並びに就労先その他関係機関と連携を取り、効果的な福祉サービスの活用に努めております。	○グループホームでは日中どのような活動をさせているのか →在宅事業で紙袋作りをされている。 ○余暇の過ごし方は →本人たちの希望を聞いて、外出したり外食をしたりしている。
運営域に開かれた	5	地域との交流や実習生・ボランティアの受け入れを行っているか	(地域住民との交流の機会を確保する工夫等について、1つ以上記載してください) ・自治会の会合、地域行事への参加を実施 ・当施設の周辺に保育園、小学校、障害児通所事業所が集まっているため、各事業所の行事等に参加をし交流を図っております。	○地域の交流について招待はしているか →アンダンテサポートの管理者などと話し合い、クリスマス会などイベントを実施している。 祭りや熊本城マラソンなどの際は外に出て、地域の方や近隣保育園の保育士などと交流している。 ○地域交流の際の利用者の反応はいかがか →なにか特別感があるというよりは普通の感覚を持っている様子(日常生活と捉えることができていた)。 (助言) 今後も交流を行い、地域の理解を深めてください。 ○施設内でイベントは実施しているか →クリスマス・ハロウィン・もちつき大会等、外部を招いて実施中。利用者の誕生日やクリスマスの際は食事のリクエストを聞き取り、提供している。
運営・支援について	6	障害福祉関連事業における経験がない従業員に対する対応	(外部または事業所内研修の受講計画(年間計画)や、資格取得への取り組みについて具体的に記載してください) ・月毎の事業所内研修の実施 ・採用時研修の実施(採用後1ヶ月以内) ・継続研修の実施(年2回) ・虐待防止研修と身体拘束と権利擁護の研修は必須で実施 ・資格取得制度とキャリアアップ制度を活用し、職員のスキルアップを図っております。	○従業員に対してメンタルヘルスは行っているか →投げかけはあるものの、産業医など含めて対応など現時点ではできていない。 ○従業員向けの研修の機会はあるか →研修動画(熊本市・厚労省など)を視聴し、アンケートを取ることでフィードバックしている。その他、研修資料・動画等は専用のグループラインを作成し随時発信している。 ○虐待防止の研修はいつ実施しているか →入職時のオリエンテーションに含まれている。 (助言) 研修動画の視聴など工夫をして実施しているが、対面で意見交換などができる研修も大切なので取り組んでほしい。
	7	従業員の確保策(夜間も含めた人材の確保)・離職防止のための取り組み	・公共職業安定所にて求人募集を実施 ・資格取得制度とキャリアアップ制度を活用し、職員のスキルアップを図り、人事評価を実施する事で離職防止につなげております。	○従業員の資格取得について、研修費の補助はあるのか →研修費用、交通費、宿泊費の補助を行っている。
	8	利用者の重度化・高齢化に対応するための従業員の質の確保のための取り組み	毎朝のMTで病状の情報共有と提供する指定生活援助の質の評価を行い、PDCAサイクルを活用し、常に支援の改善を図る取り組みを行っています。	

項目	評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
		具体的な内容	要望、助言、評価
運営・支援について	9 利用者の健康管理方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期的なバイタルサインの確認(体温、血圧、SP02を測定)を実施 の体調確認と感染症状の把握 栄養状態と排泄状況の確認 保健医療機関との連携 	<p>○栄養士の配置はあるか。また1回に何食提供しているか →栄養士の配置はしている。利用者が3名のため、毎回3食の準備をしているが、ショートステイの利用があった際はその分も含めて調理している。</p> <p>○医師から食事に関して指示を受けている利用者はいるか →透析を受けている方が、カリウムの摂取量の制限を受けている。その方については栄養士が個別にメニューを組んでいる。</p> <p>(助言) 部屋からの緊急連絡が固定ボタンのみになっている。ベット上で何か起こった場合は押すことができるが、転倒や転落により床に倒れた場合の方法がないので、ペンダント式の物又は、携帯を常に身に付けて置くなど工夫が必要と感じる。</p>
	10 モニタリングの実施方法 (他法人が運営する指定計画相談支援に依頼する等)	6ヶ月に一度、モニタリングを実施。	○相談支援員とのやり取りの頻度は →月1回ほど訪問があり、電話連絡は週1回の頻度であっている。
	11 その他運営の特色や工夫等	<p>(設備面での障害特性等への配慮)</p> <ul style="list-style-type: none"> オールバリアフリー 手すり等の設置 ナースコールの設置 身体障害者用トイレの複数台設置 居室が車いす対応設計 	<p>○利用者ごとに利用できるトイレは限られているか →身体障害者用トイレも充実しているが、どのトイレを利用しても良い。</p> <p>○洗濯はどのような管理をしているか →洗濯機が縦型のみの設置で、車椅子の利用者には難しいため、職員が手伝っている。</p> <p>(助言) できることはなるべく自身でもらうようにお願いします。</p> <p>○タオルは個人のものか →衛生面を考慮して、施設のタオルを使用させている。使用後は専用のカゴに入れてもらうことで、洗い忘れなどを防いでいる。</p> <p>○洗剤は統一しているか →全員統一で同じものを使用しているが、自身で持ち込みなどある場合は自由に使用して良い。</p> <p>○風呂場について、ストレッチャーはあるのか →常備していないが、入浴の介助は職員2人体制で行っている。時間帯も自由で、申し出があれば対応している。</p> <p>○各部屋について、全て同じ設計か。また、入居者自身で部屋を選んでいるのか →全て同じ設計にしている。入居者の部屋選びは、年齢や障がいの特性などを考慮してある程度職員でバランスをみて配置している。</p>
	(運営面での特色等)	<ul style="list-style-type: none"> 24時間看護師を配置 在宅医と連携を図り、医療面の充実 	<p>○代表の新堀氏の勤務状況について、1か月フル出勤でシフトが組まれているが、問題なく運営できているのか →現状は問題ない。6年ほどこの状態だが、体調不良などで支障をきたしたことはない。</p> <p>(助言) 万が一のことがあった時の人材不足を防ぐため、今のうちから体制を整えて偏りのないよう勤めてください。</p> <p>○訪問診療は依頼しているか →ひまわり在宅クリニックから週1回依頼している。</p>

項目	評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
		具体的な内容	要望, 助言, 評価
その他	12 災害等発生時の対応方法	防火管理者を定めるとともに、非常災害対策が起きた場合に備えて、消防計画及び大規模災害計画を策定している。また、計画に基づいて定期的に避難・救出訓練を行う。	○避難訓練の頻度は →年に2回 地震と火事で1回ずつ 児童と合同で行っている。 ○非常用電源の設備はあるか →高額のため購入を断念しているが、代わりにバッテリー式電源や自動車と繋ぎガソリンで発電できる機械を導入している。
	13 感染症発生時の対応方法	感染者の隔離を直ちに行い、他利用者との接触を少なくする環境をつくる。感染が拡大しないよう感染予防策を講じ、防護具等を装着して支援にあたる。	
	14 地域協議会からの要望, 助言への対応 (2回目以降)	(要望・助言の内容及びその対応)	